

令和7年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

## 地 理

|                  |  |            |  |
|------------------|--|------------|--|
| 受<br>験<br>番<br>号 |  | 氏<br><br>名 |  |
|------------------|--|------------|--|

### 注 意 事 項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから11ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

- 1 次の文章は、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）に示された科目「地理探究」からの一部抜粋である。これについて、後の(1)、(2)の設問に答えなさい。

## 1 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の①性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や②、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、③などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて④したりする力や、考察、④したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

## 2 内容

- A 現代世界の系統地理的考察
- B 現代世界の地誌的考察
- C 現代世界におけるこれからの日本の国土像
  - (1) 持続可能な国土像の探究

- (1) 文中の①～④に当てはまる語句として適当なものを、次のア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

ア 概念    イ 規則    ウ 分布    エ 開発    オ 構想    カ 追究

- (2) 下線部（「2 内容」C）について、学習指導要領では「3 内容の取扱い」の(2)において、以下のように記している。これを踏まえて、後の①、②の問いに答えよ。

ウ 内容のCについては、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) (1) については、次のとおり取り扱うこと。

この科目のまとめとして位置付けること。

「我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方」については、国際連合における持続可能な開発のための取組などを参考に、生徒の興味・関心などを踏まえて適切な事例を選定し、学習できるよう工夫すること。その際、「我が国が抱える地理的な諸課題」に関しては、それぞれの課題が相互に関連し合うとともに、それらの現状や要因の分析、解決の方向性については、複数の立場や意見があることに留意すること。

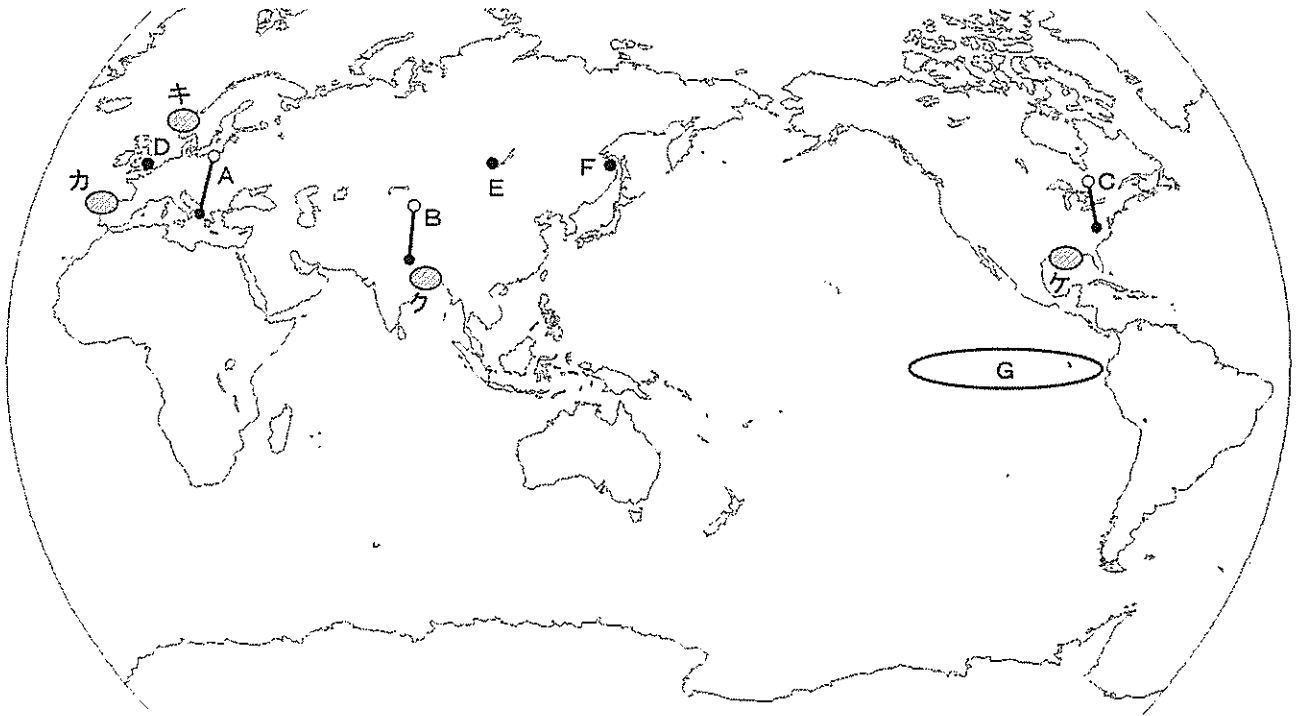
- ① 上記「3 内容の取扱い」中の二重下線部について、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」と、前身の「ミレニアム開発目標（MDGs）」の違いを簡潔に説明せよ。
- ② 「現代世界におけるこれからの日本の国土像」の単元で、次ページに示す「持続可能な開発目標（SDGs）の詳細」の「目標3 [保健]」「目標7 [エネルギー]」「目標14 [海洋資源]」から一つを選んで授業を行いたい。これらの目標から一つを選び、生徒に取り組みせたい学習活動を簡潔に書け。

## 持続可能な開発目標（SDGs）の詳細

(外務省国際協力局「持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組」より作成)

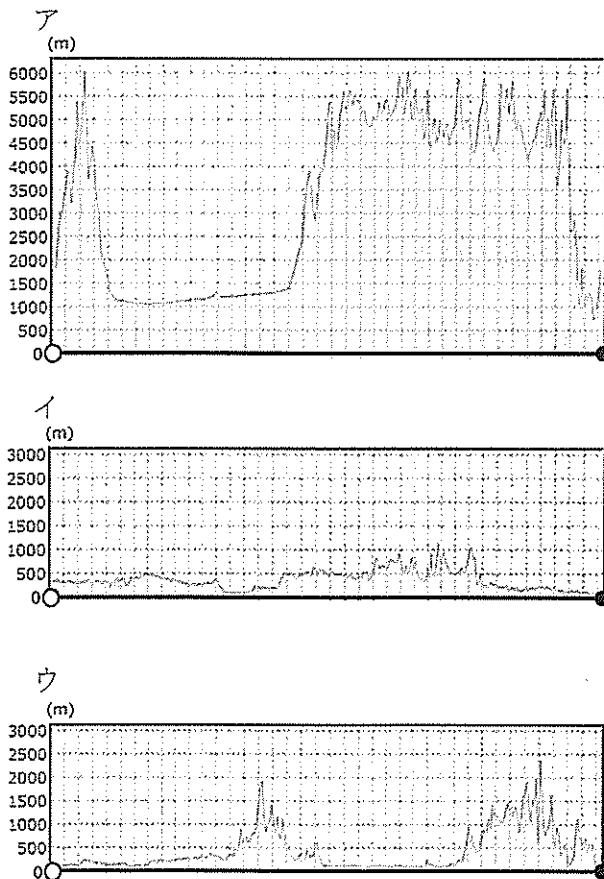
2 世界の自然環境について、次の図1を見て、後の(1)～(4)の設問に答えなさい。

図1



(1) 次の図2のア～ウは、図1中の線分A～Cのいずれかの断面図である。A～Cの断面図として最も適当なものをア～ウからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。なお、○は始点、●は終点を指している。

図2



断面図は水平距離を揃えており、縮尺は一定ではない。  
(「地理院地図」により作成)

(2) 次の図3のX、Yの海岸線について、後の①、②の問いに答えよ。

図3 X Y

図の上が北を示すとは限らない。  
また、縮尺は一定ではない。

(「Yahoo!地図」より作成)

① X、Yの海岸線が見られる場所として最も適当なものを図1中のカ～ケからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

② X、Yの海岸線に共通する成因を簡潔に書け。

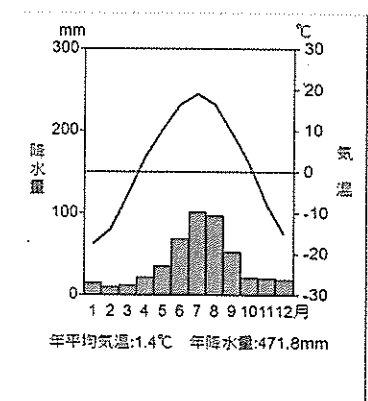
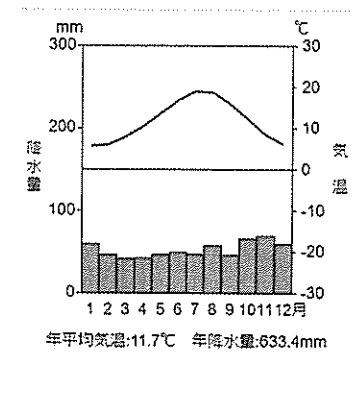
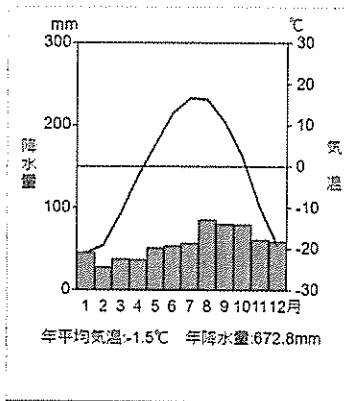
(3) 次の図4のサ～スは、図1中の北緯50度付近に位置するD～Fの各都市における、雨温図である。これについて、後の①、②の問いに答えよ。

図4

サ

シ

ス



(気象庁のホームページより作成)

① D～Fの各都市の雨温図として最も適切なものをサ～スからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

② D～Fの各都市は北緯50度付近にありながら、気温や降水量が大きく異なっている。このような違いがあらわれる原因を、各都市の位置に注目して簡潔に説明せよ。

(4) 図1中のGの範囲付近では、数年おきに「エルニーニョ現象」が発生する。このことについて、次の①、②の問いに答えよ。

① エルニーニョ現象について、簡潔に説明せよ。

② エルニーニョ現象は、世界各地で発生する異常な気象の要因になり得ると考えられているが、エルニーニョ現象発生時に、日本の夏季に見られる天候の特徴について、その理由を踏まえて簡潔に書け。

3 資源と産業について、後の(1)～(5)の設問に答えなさい。

(1) 次の表1は、米、小麦、とうもろこしの地域別の生産割合(2020年)を示したものである。X～Zに該当する穀物の組合せとして正しいものをア～カから一つ選び、記号で答えよ。

表1

| X     |       | Y     |       | Z     |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 国名    | 割合(%) | 国名    | 割合(%) | 国名    | 割合(%) |
| アジア   | 31.4  | アジア   | 45.7  | アジア   | 89.4  |
| アフリカ  | 7.8   | アフリカ  | 3.3   | アフリカ  | 5.0   |
| ヨーロッパ | 10.7  | ヨーロッパ | 33.5  | ヨーロッパ | 0.5   |
| 北アメリカ | 34.9  | 北アメリカ | 11.6  | 北アメリカ | 1.8   |
| 南アメリカ | 15.2  | 南アメリカ | 3.9   | 南アメリカ | 3.3   |
|       |       | オセアニア | 2.0   |       |       |
| 合計    | 100   | 合計    | 100   | 合計    | 100   |

(「データブック オブ・ザ・ワールド 2023年版」により作成)

|        | ア | イ | ウ | エ | オ | カ |
|--------|---|---|---|---|---|---|
| 米      | X | X | Y | Y | Z | Z |
| 小麦     | Y | Z | X | Z | X | Y |
| とうもろこし | Z | Y | Z | X | Y | X |

(2) 次の表2は、代表的なプランテーション作物の国別生産量上位6カ国(2020年)を示したものである。表2のA～Dに該当する国名を、それぞれ答えよ。

表2

|    | パーム油   | バナナ   | コーヒー豆 | 茶      |
|----|--------|-------|-------|--------|
| 1位 | A      | B     | ブラジル  | C      |
| 2位 | マレーシア  | C     | ベトナム  | B      |
| 3位 | タイ     | A     | D     | ケニア    |
| 4位 | D      | ブラジル  | A     | アルゼンチン |
| 5位 | ナイジェリア | エクアドル | エチオピア | スリランカ  |
| 6位 | グアテマラ  | フィリピン | ペルー   | トルコ    |

(「データブック オブ・ザ・ワールド 2023年版」により作成)

(3) 次の表3のA～Dは、イスラエル、インド、ウクライナ、ボツワナのいずれかの主要輸出品目(各国上位5品目)と輸出総額(2020年)を示している。表3のA～Dに当てはまる国名を、それぞれ答えよ。

表3

(単位は百万ドル)

| A      |        | B       |       | C      |        | D      |         |
|--------|--------|---------|-------|--------|--------|--------|---------|
| 機械類    | 13,610 | ダイヤモンド  | 3,749 | 鉄鋼     | 8,224  | 機械類    | 32,506  |
| ダイヤモンド | 5,417  | 機械類     | 143   | ひまわり油  | 5,320  | 石油製品   | 26,805  |
| 精密機械   | 4,545  | 金(非貨幣用) | 46    | とうもろこし | 4,885  | 医薬品    | 20,099  |
| 有機化合物  | 4,137  | ソーダ灰    | 40    | 機械類    | 4,529  | 有機化合物  | 16,093  |
| 航空機    | 2,218  | 銅鉱      | 26    | 鉄鉱石    | 4,239  | ダイヤモンド | 15,209  |
| ∴      |        | ∴       |       | ∴      |        | ∴      |         |
| 合計     | 50,153 | 合計      | 4,256 | 合計     | 49,231 | 合計     | 275,489 |

(「世界国勢図会 2022/23」により作成)

- (4) 次の表4は、いくつかの国の木材伐採高とその用途による内訳を示したものである。この表の内容について、後の①、②の問いに答えよ。

表4

|        |         | 木材伐採高(千m <sup>3</sup> ) |                     |
|--------|---------|-------------------------|---------------------|
|        |         | X(千m <sup>3</sup> )     | Y(千m <sup>3</sup> ) |
| A      | 350,667 | 301,150                 | 49,517              |
| B      | 266,288 | 123,299                 | 142,989             |
| ナイジェリア | 76,905  | 66,883                  | 10,022              |
| スウェーデン | 76,060  | 5,460                   | 70,600              |
| ガーナ    | 52,380  | 50,166                  | 2,214               |
| 日本     | 30,349  | 6,932                   | 23,417              |
| イギリス   | 10,533  | 2,429                   | 8,103               |
| C      | 7,283   | 6,524                   | 759                 |

※統計年次は2020年。

(「世界国勢図会2022/23」により作成)

- ① 表4のX及びYは、用材または薪炭材のどちらかである。用材に該当するものを、XまたはYから選択し、そのように判断した理由を説明せよ。
- ② 表4のA～Cは、ペルー、インド、ブラジルのいずれかの国が該当する。表4中のA～Cに該当する各国の組合せとして正しいものをア～カから一つ選び、記号で答えよ。

|      | ア | イ | ウ | エ | オ | カ |
|------|---|---|---|---|---|---|
| ペルー  | A | A | B | B | C | C |
| インド  | B | C | A | C | A | B |
| ブラジル | C | B | C | A | B | A |

- (5) 次の表5のA～Dは、アメリカ合衆国、スウェーデン、中国、日本のいずれかの国における知的財産使用料の輸出額および輸入額、国際出願特許件数を示したものである。表5のA～Dに当てはまる国名を、それぞれ答えよ。また、A～Cについて、そのように判断した理由をそれぞれ答えよ。

表5

|                  | A     | B      | C       | D      |
|------------------|-------|--------|---------|--------|
| 知的財産使用料輸出額(百万ドル) | 8,374 | 8,554  | 113,779 | 43,038 |
| 知的財産使用料輸入額(百万ドル) | 9,199 | 37,782 | 42,984  | 28,218 |
| 国際出願特許件数(件)      | 4,451 | 69,562 | 59,440  | 50,262 |

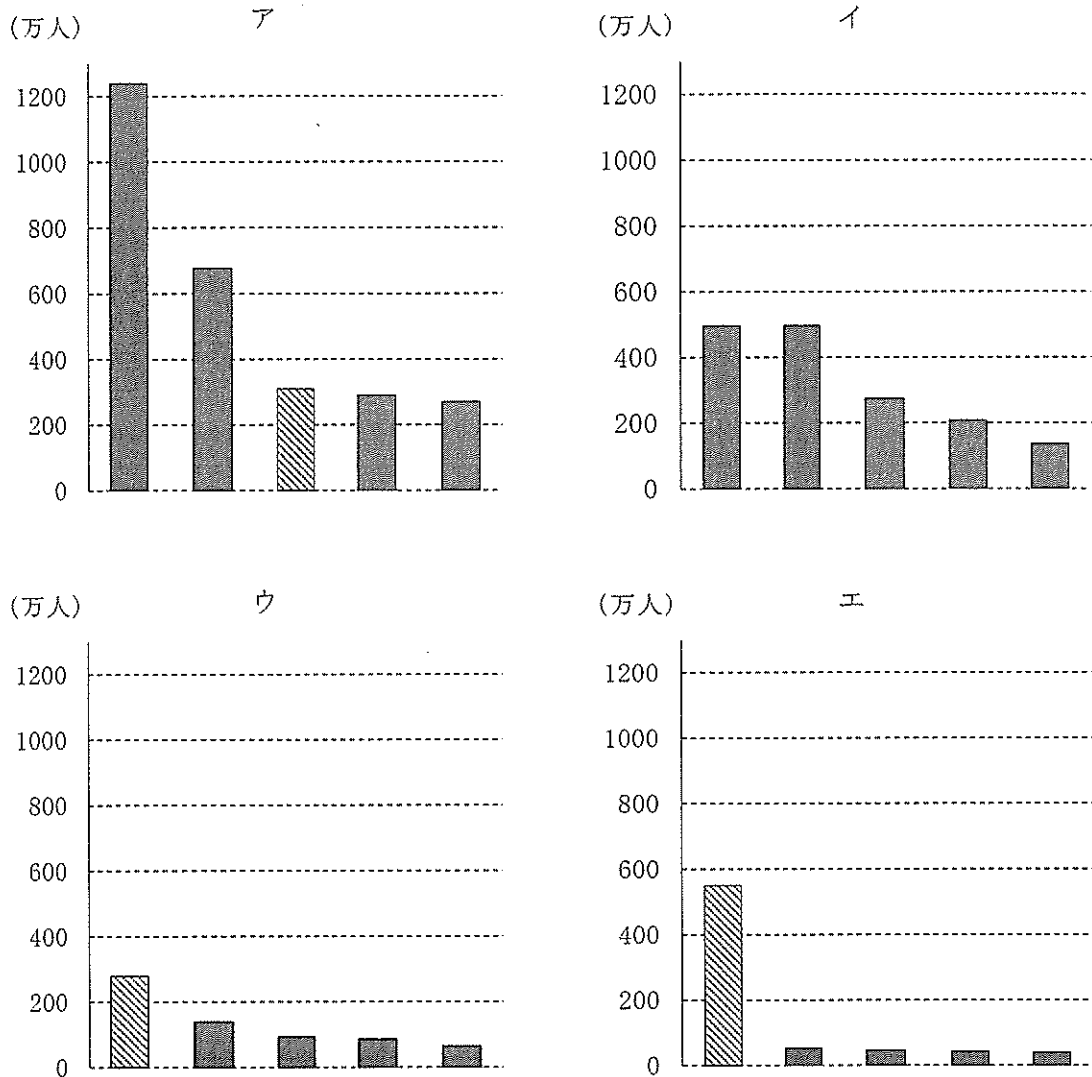
※知的財産使用料は2020年、国際出願特許件数は2021年。

(「世界国勢図会2022/23」により作成)

4 人口、生活文化の多様性、都市について、後の(1)～(3)の設問に答えなさい。

(1) 次の図1中のア～エは、タイ、イタリア、ブラジル、オーストラリアのいずれかにおける人口上位5都市について示したものである。これについて、後の①～③の問いに答えよ。

図1



※ は首都を示している。

(「データブック オブ・ザ・ワールド 2024年版」により作成)

- ① ア～エに該当する国名をそれぞれ答えよ。
- ② アとイでは、人口1位の都市が首都となっていない。アとイの首都名を明らかにし、それぞれの首都の成立の経緯を簡潔に説明せよ。
- ③ エの人口1位の都市は、2位以下の都市との人口の開きが約10倍と極めて大きい。このような、国内の人口が極端に集中する都市を何と呼ぶか答えよ。また、このような都市で発生すると考えられる都市問題について、簡潔に説明せよ。



- (2) 次の表1は、ムスリム人口の多い上位6か国における、総人口に占めるムスリム人口の割合を示したものである。表1のA～Cに該当する国名をそれぞれ答えよ。

表1

| ムスリム人口の順位 | 国名      | 地域   | ムスリム人口(千人) | ムスリム人口の占める割合(%) |
|-----------|---------|------|------------|-----------------|
| 1         | A       | アジア  | 230,200    | 87.2            |
| 2         | B       | アジア  | 190,164    | 14.2            |
| 3         | パキスタン   | アジア  | 189,923    | 96.4            |
| 4         | バングラデシュ | アジア  | 146,721    | 89.1            |
| 5         | C       | アフリカ | 96,397     | 50.5            |
| 6         | エジプト    | アフリカ | 87,798     | 90.0            |

(人間科学研究 32 巻 2 号「世界と日本のムスリム人口 2018 年」により作成)

- (3) 次の表2は、日本における三大都市圏の中心都市から 50km 圏内における 10 年ごとの人口増加率と、2010 年時点における各 50km 圏人口が都市圏全体の人口に占める割合を示したものである。このことについて、後の①～③の問いに答えよ。

表2

| 都市圏        | 人口増加率       |             |             |             |             | 50km 圏人口が都市圏全体の人口に占める割合(2010年) |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------------------------|
|            | 1960年～1970年 | 1970年～1980年 | 1980年～1990年 | 1990年～2000年 | 2000年～2010年 |                                |
| 東京 50km 圏  | 39.0        | 20.0        | 10.8        | 5.2         | 6.5         | 88.6%                          |
| (A) 50km 圏 | 25.6        | 15.6        | 7.7         | 5.0         | 3.9         | 100.9%                         |
| (B) 50km 圏 | 32.1        | 13.1        | 5.1         | 2.2         | -1.4        | 84.5%                          |

※ 50km 圏人口とは、東京圏は旧東京都庁(東京都千代田区)、名古屋圏は名古屋役所(名古屋市中区)、大阪圏は大阪役所(大阪市北区)を中心とする半径 50km 以内に含まれる町丁・字等の人口の総計を指す。

※ 都市圏全体の人口は、総務省統計局の定義に基づく「関東大都市圏」「中京大都市圏」「近畿大都市圏」に含まれる市町村人口の合計を用いている。

(国勢調査などにより作成)

- ① 表2の(A)、(B)には名古屋または大阪のいずれかが当てはまる。名古屋に該当するものを選び、記号で答えよ。
- ② ①の解答に至った根拠を、表2から読み取れることを踏まえて簡潔に説明せよ。
- ③ 2000年～2010年においては、東京 50km 圏のみ、前の期間を上回る増加率となっている。この時期においては、東京都心部での人口増加が起こっていると考えられるが、その要因は何か、簡潔に説明せよ。

5 ヨーロッパについて、後の(1)～(4)の設問に答えなさい。

(1) 次の表1はEUの略史を示したものである。これについて後の①～④に答えよ。なお、[ ア ]、[ イ ]には複数の国名が当てはまる。

表1 EU (EC) の略史

|             |   |
|-------------|---|
| 1952年       | ECの原加盟国である [ ア ] がECSCを形成。              |
| 1958年       | EEC発足で経済的な統合が進み、原子力分野での共同体であるEURATOM結成。 |
| 1967年       | ECSC、EEC、EURATOMが統合されてECが成立。            |
| 1973年～1986年 | [ イ ] がECに加盟。                           |
| 1993年       | 通貨統合や政治的統合などを目指す( ウ )の発効に伴ってEUが成立。      |
| 1999年       | 単一通貨であるユーロを導入。                          |
| 2004年～2013年 | aさらに加盟国が増え、全28か国となる。                    |
| 2009年       | ( エ )が発効し、政治面・外交面での統合をさらに強めた。           |
| 2020年       | 【 オ 】し、加盟国数が27か国となる。                    |

① 表1の[ ア ]、[ イ ]に関して、それぞれに該当する国名を、次のa～pから全て選び、記号で答えよ。

- |          |        |         |            |
|----------|--------|---------|------------|
| a アイルランド | b イギリス | c イタリア  | d オランダ     |
| e ギリシャ   | f スイス  | g スペイン  | h チェコスロバキア |
| i デンマーク  | j 西ドイツ | k ノルウェー | l ハンガリー    |
| m フランス   | n ベルギー | o ポルトガル | p ルクセンブルク  |

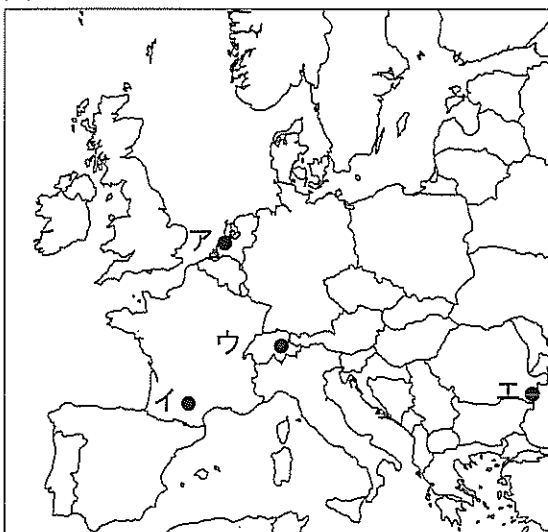
② 表1の(ウ)、(エ)に該当する条約名をそれぞれ答えよ。

③ 表1の下線部 a に関して、この期間に加盟した国々の多くにおいて、主にどのような特徴が見られたか、社会体制と地域に言及して説明せよ。

④ 表1の【 オ 】に当てはまる内容を、具体的な国名を挙げながら簡潔に答えよ。

(2) 次の図1のア～エは語群a～dに示す世界遺産の位置を示している。ア、ウに該当する世界遺産をa～dから一つ選び、記号で答えよ。また、ア、ウの地域の自然環境についての授業において、それぞれの世界遺産を導入として用いる場合に、どのような説明をするか答えよ。

図1

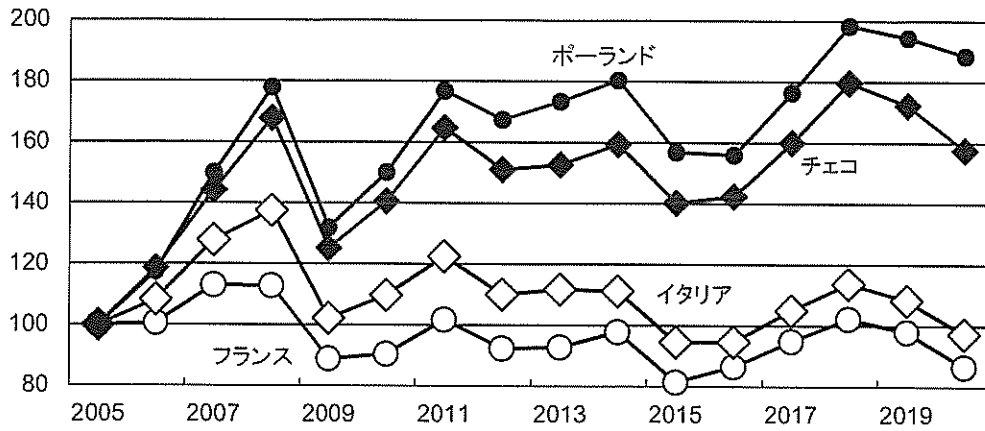


語群

- a キンデルダイク風車群
- b ミディ運河
- c サルドーナ地殻変動地帯
- d ドナウデルタ

- (3) 次の図2は、ヨーロッパ4か国における工業生産指数（2005年を100とした際の工業生産額の相対値）を示したものであり、西ヨーロッパのイタリアとフランスに比べ、東ヨーロッパのポーランドとチェコの伸びが顕著であることが読み取れる。この理由として考えられることについて、西ヨーロッパと東ヨーロッパの関係性に着目して説明せよ。

図2



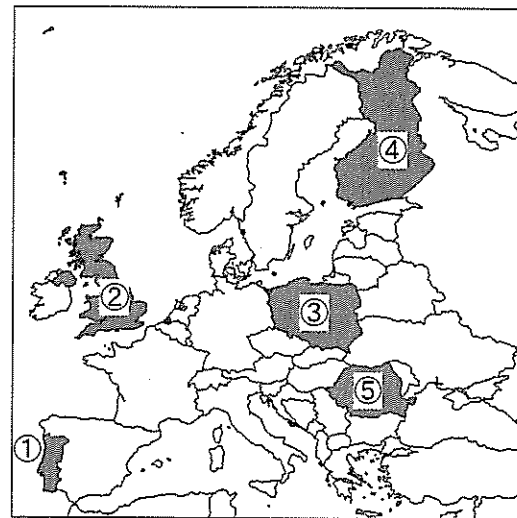
(「INDSTAT2 2023, ISIC Revision3」により作成)

- (4) ヨーロッパにはキリスト教各宗派を中心とする多様な宗教と言語がみられる。次の図3中の①～⑤の国において、人口が最も多い民族の言語と、信者数が最も多い宗派の組合せとして適切なものを、次の表2のア～シからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

表2

|   | 言語     | 宗派      |
|---|--------|---------|
| ア | ラテン語派  | カトリック   |
| イ | ラテン語派  | プロテスタント |
| ウ | ラテン語派  | 東方正教    |
| エ | ゲルマン語派 | カトリック   |
| オ | ゲルマン語派 | プロテスタント |
| カ | ゲルマン語派 | 東方正教    |
| キ | スラブ語派  | カトリック   |
| ク | スラブ語派  | プロテスタント |
| ケ | スラブ語派  | 東方正教    |
| コ | ウラル語派  | カトリック   |
| サ | ウラル語派  | プロテスタント |
| シ | ウラル語派  | 東方正教    |

図3



(「データブック オブ・ザ・ワールド 2024年版」により作成)

6 次の図1は岐阜県養老町の地形図である。日本の地形図や図1について後の(1)～(4)の設問に答えなさい。

図1

(「地理院地図」により作成)

(1) 地形図について、次の①、②の問いに答えよ

① 地形図は、国土交通省が管轄する機関が発行している。その機関の名称を答えよ。

② 近年、従来の紙地図と異なり、地図情報をデジタル化した地形図や国土基本図が普及してきている。このような地図の総称を何というか答えよ。

(2) 図1には「小倉谷」という河川が見られる。「小倉谷」で見られる地形の特徴について、地図記号に着目し、説明せよ。

(3) 図1の「西小倉」や「若宮」付近は、どのような土地利用が見られるか。その理由を含めて説明せよ。

(4) 図1の「南小倉」や「船見」付近の集落は、「西小倉」付近に比べると、早くから集落が形成されてきたと考えられる。そのように考えられる理由を説明せよ。

|        |         |      |  |    |  |
|--------|---------|------|--|----|--|
| 地理解答用紙 | 2 枚中の 1 | 受験番号 |  | 氏名 |  |
|--------|---------|------|--|----|--|

(7年)

1

|             |   |      |   |
|-------------|---|------|---|
| (1)<br>①    | ② | ③    | ④ |
| (2)<br>①    |   |      |   |
| ② 持続可能な開発目標 |   | 学習活動 |   |

2

|           |   |   |
|-----------|---|---|
| (1)<br>A  | B | C |
| (2)<br>①X | Y | ② |
| (3)<br>①D | E | F |
| ②         |   |   |
| (4)<br>①  |   |   |
| ②         |   |   |

3

|             |       |   |   |
|-------------|-------|---|---|
| (1)         |       |   |   |
| (2)<br>A    | B     | C | D |
| (3)<br>A    | B     | C | D |
| (4)①<br>用材  | 理由    |   |   |
| (4)<br>②    | (5) A | B | C |
| (5) 理由<br>A |       |   |   |
| (5) 理由<br>B |       |   |   |
| (5) 理由<br>C |       |   |   |

|        |         |      |  |    |  |
|--------|---------|------|--|----|--|
| 地理解答用紙 | 2 枚中の 2 | 受験番号 |  | 氏名 |  |
|--------|---------|------|--|----|--|

(7年)

4

|           |      |   |   |
|-----------|------|---|---|
| (1)①<br>ア | イ    | ウ | エ |
| ②ア 都市名    | 経緯   |   |   |
| ②イ 都市名    | 経緯   |   |   |
| ③ 用語      | 都市問題 |   |   |
| (2)<br>A  | B    | C |   |
| (3)①      | ②    |   |   |
| ③         |      |   |   |

5

|          |       |   |   |   |
|----------|-------|---|---|---|
| (1)①ア    | イ     |   |   |   |
| ②ウ       | エ     |   |   |   |
| ③        |       |   |   |   |
| ④        |       |   |   |   |
| (2)ア(記号) | ア(説明) |   |   |   |
| (2)ウ(記号) | ウ(説明) |   |   |   |
| (3)      |       |   |   |   |
| (4)<br>① | ②     | ③ | ④ | ⑤ |

6

|          |   |
|----------|---|
| (1)<br>① | ② |
| (2)      |   |
| (3)      |   |
| (4)      |   |

以下はあくまでも解答の一例です。

|        |         |      |  |    |  |
|--------|---------|------|--|----|--|
| 地理解答用紙 | 2 枚中の 1 | 受験番号 |  | 氏名 |  |
|--------|---------|------|--|----|--|

(7年)

1 (16点)

|  |   |     |     |
|--|---|-----|-----|
| (1) 2点×4<br>① イ  | ② ウ   | ③ ア | ④ オ |
| (2) 4点<br>① 例) 「ミレニアム開発目標」が主として開発途上国向けの目標であったのに対し、「持続可能な開発目標」は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指すすべての国が取り組むべき世界共通の普遍的な目標となっている。 |   |     |     |
| ② 持続可能な開発目標<br>例) エネルギー  | 学習活動 4点<br>例) 我が国のエネルギー供給をめぐる課題について、エネルギー資源の転換や貿易収支などの諸資料を活用し、安全性や環境負荷、安定供給などの側面から理解し、解決に向けて様々な意見があることを考えさせる。 |     |     |

2 (34点)

|   |     |                                     |
|---|-----|-------------------------------------|
| (1) 2点×3<br>A ウ   | B ア | C イ                                 |
| (2) 2点×2<br>① X キ   | Y カ | 3点<br>② 例) 海面上昇や海岸沈降によってできた沈水海岸である。 |
| (3) 2点×3<br>① D シ   | E ス | F サ                                 |
| ② 6点<br>例) 大陸西岸の都市Dは、沿岸を暖流が流れ、また、亜熱帯高圧帯から亜寒帯低圧帯に向かって偏西風が吹いているため、一年を通じて比較的温暖で降水量も多い。一方、内陸や大陸東岸の都市Eと都市Fは西岸と比べて気温の年較差が大きく、モンスーンが発達するため降水量の季節変化がみられる。都市Eと都市Fを比較すると、沿岸部に位置する都市Fは内陸に位置する都市Eよりも降水量が多くなる。 |     |                                     |
| (4) 3点<br>① 例) 太平洋東部の熱帯域の海面水温が平年より高くなり、その状態が数ヶ月から1年程度続く現象。  |     |                                     |
| ② 6点<br>例) エルニーニョ現象が発生している時には、湧昇流が弱まり、貿易風が弱まることで、暖かい海水域が東方へ広がるため、積乱雲が発生する海域が平年時よりも東へ移る。その結果、日本付近の夏は、太平洋高気圧の張り出しが弱くなり冷夏になりやすくなる。   |     |                                     |

3 (42点)

|   |   |         |                   |
|---|---|---------|-------------------|
| (1) 3点<br>カ   |   |         |                   |
| (2) 2点×4<br>A インドネシア  | B インド   | C 中国    | D コロンビア           |
| (3) 2点×4<br>A イスラエル   | B ボツワナ  | C ウクライナ | D インド             |
| (4) ① 2点<br>用材 Y  | 理由 4点 例) イギリスや日本のような先進国では、エネルギーを得るためには薪炭材より化石燃料を利用することが多く、また工業が発達しているため木材を薪炭材より用材として利用する割合が多いため、先進国で使用割合が多くなっているため。 |         |                   |
| (4) 3点<br>② オ   | (5) A 2点×4<br>スウェーデン  | B 中国    | C アメリカ合衆国<br>D 日本 |
| (3)理由2点<br>A 例) 4ヶ国のなかでもっとも人口が少なく、GDPが小さく、知的財産使用料の輸出入額や国際出願特許件数が少なくなるため。  |   |         |                   |
| (5)理由2点<br>B 例) 1人あたりGDPが4ヶ国の中では最も低く、経済水準が低いため、知的財産使用料の輸入額が輸出額を大きく上回るため。  |   |         |                   |
| (5)理由2点<br>C 例) 1人あたりGDPが高く、経済水準が高いため研究開発が盛んであり、知的財産使用料の輸出額が輸入額を大きく上回るため。 |   |         |                   |

|        |         |      |  |    |  |
|--------|---------|------|--|----|--|
| 地理解答用紙 | 2 枚中の 2 | 受験番号 |  | 氏名 |  |
|--------|---------|------|--|----|--|

(7年)

4 (42点)

|                             |  |          |      |
|-----------------------------|--|----------|------|
| (1) ① 2点×4<br>ア ブラジル        | イ オーストラリア  | ウ イタリア   | エ タイ |
| ②ア 都市名 2点<br>ブラジリア          | 経緯 内陸部開発の拠点として計画的に建設され、リオデジャネイロから遷都した。<br>4点   |          |      |
| ②イ 都市名 2点<br>キャンベラ          | 経緯 メルボルンとシドニーの間の首都をめぐる対立を解決するため、両都市の間に計画的に建設された。<br>4点   |          |      |
| ③ 用語 2点<br>プライメートシティ (首位都市) | 都市問題 例) 急増する交通量に対応する道路整備が不足しており、交通渋滞が深刻化する。 など<br>4点   |          |      |
| (2) 2点×3<br>A インドネシア        | B インド  | C ナイジェリア |      |
| (3) ①2点<br>A 4点             | ② 例) 50km 圏人口が都市圏全体に占める割合が 100%を越えており、3大都市圏の中では都市圏の面積が最も小さいと考えられる。<br>③ 都心部の再開発などが進み、高所得層を中心に都心部へ移り住む人が増加していると考えられる。<br>4点 |          |      |

5 (43点)

|   |   |     |     |     |
|---|---|-----|-----|-----|
| (1) ①ア 完答 3点<br>c、d、j、m、n、p (順不同)   | イ 完答 3点<br>a、b、e、g、i、o (順不同)                                      |     |     |     |
| ②ウ 3点<br>マーストリヒト条約  | エ 3点<br>リスボン条約  |     |     |     |
| ③ かつて社会主義体制下にあった東ヨーロッパや旧ソビエト連邦の一部であった国。<br>4点                             |   |     |     |     |
| ④ イギリスがEUを離脱<br>3点  |   |     |     |     |
| (2)ア (記号) a 1点  | ア (説明) 偏西風帯に位置するオランダでは多くの風車が西側を向いており、干拓地の排水などの動力に風力を利用してきた。<br>4点 |     |     |     |
| (2)ウ (記号) c 1点  | ウ (説明) 現在も褶曲などの地殻変動が活発な造山帯の一角をなすアルプス山脈では、高く険しい山が連なっている。<br>4点     |     |     |     |
| ③ 西ヨーロッパの工場が賃金の安い東ヨーロッパに進出した結果、西ヨーロッパの工業生産が停滞する一方で、東ヨーロッパの工業生産が伸びた。<br>4点 |   |     |     |     |
| (4) 2点×5<br>① ア   | ② オ   | ③ キ | ④ サ | ⑤ ウ |

6 (23点)

|  |           |
|--|-----------|
| (1) 3点×2<br>① 国土地理院  | ② 電子国土基本図 |
| (2) 6点<br>扇頂には、堰の地図記号があり、上流からの土砂の運搬量が多いことがわかる。扇中央部分は、河川が破線で表されていることから、水無川になっていて、扇端部分では傾斜が緩やかになり、河川の運搬力が弱まるため、鉄道がトンネルで河川の下を通っていることから、天井川が形成されていることがわかる。 |           |
| (3) 6点<br>「西小倉」や「若宮」付近は、扇状地の扇中央付近に位置し、河川は伏流し、砂礫が厚く堆積しているため、水はけがよく果樹園としての土地利用が多くなっている。  |           |
| (4) 5点<br>扇端に位置し、伏流していた河川が湧水帯を形成し、水が得やすく水田耕作に向いているため、早くから集落が形成された。   |           |